

## イザヤ書 62 : 10～63 : 6

### 62章 シオンのための誓い

62 : 10 通れ、通れ、城門を。

この民の道を整え、

盛り上げ、土を盛り上げ、大路を造れ。

石を取り除いて国々の民の上に旗を揚げよ。

עָבְרוּ עָבְרוּ בְּשַׁעְרֵים פָּנּוּ דְרֹךְ הָעָם סְלוּ<sup>WTT</sup> Isaiah 62:10

סְלוּ הַמְּסֻלָּה סְקְלוּ מֵאֲבָן הָרִימוּ נֶס עַל-הָעַמִּים:

62 : 11 見よ。

主は、地の果てまで聞こえるように仰せられた。

「シオンの娘に言え。

『見よ。その報いは主とともにあり、

その報酬は主の前にある』と。

הִנֵּה יְהוָה הַשְּׁמִיעַ אֶל-קִצֵּה הָאָרֶץ אָמְרוּ<sup>WTT</sup> Isaiah 62:11

לְבַת-צִיּוֹן הִנֵּה יִשְׁעָךְ בָּא הִנֵּה שְׂכָרוֹ אֲתוֹ וּפְעֻלָּתוֹ לְפָנָיו:

62 : 12 彼らは、聖なる民、主に贖われた者と呼ばれ、

あなたは、尋ね求められる者、

見捨てられない町と呼ばれる。」

וְקָרְאוּ לָהֶם עַם-הַקֹּדֶשׁ נְאוּלֵי יְהוָה וְלֹךְ<sup>WTT</sup> Isaiah 62:12

וְקָרְאָהּ דְרוּשָׁה עִיר לֹא נִעְזָבָה: ס

<通れ、通れ><盛り上げ、土を盛り上げ>と、イザヤの特徴である繰り返しにより、シオンの救いの成就を強調する。文章は、イザヤ書全体と関係している。

<城門>→26 : 2

<道を整え>→40 : 3、57 : 14

<盛り上げ、土を盛り上げ>→57 : 14

<大路を造れ>→11 : 16、19 : 23、35 : 8、49 : 11

<石を取り除いて>→40 : 3、57 : 14 参照

<旗を揚げよ>→11 : 10、12、49 : 22

<地の果てまで>→42 : 10、49 : 6

<救いが来る>→51 : 5

<見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の前にある>→40 : 10

<聖なる民>→4 : 3、60 : 14

<主に贖われた者>→35 : 9

<見捨てられない>→41 : 17、42 : 16、62 : 4

以上のリストは、イザヤ書全体の統一性の証言であり、それを逆に言えば、終末的な預言の性格が、すでに、4、11、19、26 章などにおいて考えられていたことを知るための資料でもある。

## 63 章 シオンを救う熱心

60-62 章において、終末に向かったシオンの救いと栄光について述べられた。それは、前半の 35 章の終末預言に当たると言えよう。一方、63:1-6 では、シオンの代表的な敵エドムの滅亡について述べられているので、それは、34 章に当たるものと判断される。次に 63 : 7 からは、預言者が新しい民の代表者として神に感謝と信仰告白を述べ、同時に、神にあわれみを請う祈りをする。65 章と 66 章は、その祈りに対する答えである。

63 : 1 「エドムから来る者、  
ボツラから深紅の衣を着て来るこの者は、だれか。  
その着物には威光があり、  
大いなる力をもって進んで来るこの者は。」  
「正義を語り、  
救うに力強い者、それがわたしだ。」

מִי־זֶה | בָּא מֵאֲדוֹם חֲמוּץ בְּגָדִים מְבֻצָּרָה זֶה <sup>WTT</sup> Isaiah 63:1

הַדָּוָר בְּלִבוֹשׁוֹ צִעָה בְּרֶגֶב כַּחַו אֲנִי מְדַבֵּר בְּצַדִּיקָה רַב

לְהוֹשִׁיעַ:

節の初めは<だれか>という疑問詞であり、登場する人物を見たときの驚きの感情を表現している。その人物は<深紅の衣を着て>いる。よく見れば、それは血の酒ぶねを踏んだ結果、

血のしたたりがふりかかったものであった。<エドム>→21 : 11 注解、34 : 5-15.<ボツラ>→34:5-15 注解。ボツラはエドムの首都であった。ここでは、神の民を迫害する敵のチャンピオンとして現れている。ここに登場する人物の資格については、<正義を語り><救うに力強い者>と二つのことが言われている。<正義>（ヘツェダーカー）→5 : 16 注解。敵を踏みつけ、その血で衣が真赤に染まるほど戦う目的は、神の民の救いである。

63 : 2 「なぜ、あなたの着物は赤く、  
あなたの衣は酒ぶねを踏む者のようなのか。」

מִדְּמַע אָדָם לְלְבוּשֵׁךָ וּבְגָדֶיךָ כְּדָרֶךְ בְּנֹתָ: <sup>WTT</sup> Isaiah 63:2

前節では、登場人物はまだ遠くにいたが、やがてその声が聞こえ、更に2節では、この人物に向かって尋ねるほどの近さになる。<赤く>は、ヘブル語では「エドム」と同じ三文字である（創 25 : 30）。<酒ぶね>は、自然の石灰岩床に掘り込んだ矩形の穴。そこでぶどうを足で踏んだので、その汁が踏む者の衣をぬらした。

63 : 3 「わたしはひとりで酒ぶねを踏んだ。  
国々の民のうちに、  
わたしと事を共にする者はいなかった。  
わたしは怒って彼らを踏み、  
憤って彼らを踏みにじった。  
それで、彼らの血のしたたりが、  
わたしの衣にふりかかり、  
わたしの着物を、すっかり汚してしまった。」

פֹּרְחָהּ | דְּרָכָתִי לְבָדִי וּמַעַמִּים אֵין־אִישׁ אִתִּי <sup>WTT</sup> Isaiah 63:3

וְאֶדְרַכֶּם בְּאִפִּי וְאֶרְמַסֶּם בְּחַמְתִּי וַיֵּז נַצְחָם עַל־בְּגָדִי

וְכָל־מִלְבוּשֵׁי אֶגְאָלְתִּי:

63 : 4 わたしの心のうちに復讐の日があり、  
わたしの贖いの年が来たからだ。

כִּי יוֹם נִקָּם בְּלִבִּי וּשְׁנַת גְּאוּלִּי בָּאָה: <sup>WTT</sup> Isaiah 63:4

63 : 5 わたしは見回したが、だれも助ける者はなく、  
いぶかったが、だれもささえる者はいなかった。  
そこで、わたしの腕で救いをもたらし、

わたしの憤りを、わたしのささえとした。

וְאֵבִיטְ וְאֵינְ עֹזֵר וְאֲשִׁתּוֹמִם וְאֵינְ סוֹמֵךְ וְתוֹשֵׁעַ <sup>WTT</sup> Isaiah 63:5

לִי זִרְעִי וְחַמְתִּי הִיא סִמְכָתִנִּי:

63 : 6 わたしは、怒って国々の民を踏みつけ、  
憤って彼らを踏みつぶし、  
彼らの血のしたたりを地に流した。」

וְאָבֹס עַמִּים בְּאַפִּי וְאֲשַׁכְּרֵם בְּחַמְתִּי וְאוֹרִיד <sup>WTT</sup> Isaiah 63:6

לְאֶרֶץ נִצְחָם: ס

預言者の質問に答えて、深紅の衣を着た人物は、神ご自身であることを明らかにする。それは、4-6節が神ご自身のみわざに属しているからである。<復讐の日>→34 : 8 注解、35 : 4、61 : 2。しかし、<復讐の日>は同時に<贖いの年>である(61 : 2)。5節は明らかに 59 : 16 に基づいている。5節では4つの語の第一字が、6節では5つの語の第一字がアーレフになっている。この部分で大切なことは、①神が人として現れていること、②神のみが働き、だれも協力する者はいないこと、③シオンの救いと、敵の滅亡は、一つの事件の両面であること。